

『種から育てよう—有機のタネの採り方・育て方』のご案内

全国の有機農家が自らの種採りとその育て方を記した『土と健康』連載「種から育てよう」が冊子になりました。70品種以上の作物の実践例に加え、広島県農業ジーンバンクで種苗の管理をされてきた船越建明さんの「伝統野菜の種採り技術」も掲載しました。

いのちをつなぐ農家の営み、入手の経緯や種をめぐる人間模様など、種への愛情や作物への慈しみ、また自然への感謝が読む者の心を満たします。生産者、消費者を問わず日々の生活の傍らに置きたい一編です。

『土と健康』は、このほど創立50周年を迎えた日本有機農業研究会の会誌です。表紙絵はいつも、画家で絵本作家の田島征三さん。本書の表紙絵は、50周年記念の「手ぬぐい」と同じです。



内容 「もくじ」より

Part 1 有機のタネの採り方

- 「自家採種を続けよう」 林 重孝
- 「野菜と暮らしていく」 岩崎政利
- 「自家採種をすすめよう」 船越建明

Part 2 種から育てよう

- 「城南小松菜（大平博四）」
- 「畑菜（岩崎 政利）」
- 「うずらインゲン（魚住道郎）」
- 「大豆（小糸）（林重孝）」など70項目

Part 3 日有研の種苗ネットワーク

- 「農の技談義 林重孝×武田松男」
- 「種・花粉・穂木の保存」武田松男
- 種苗ネットワークとは
- 種苗ネットワーク頒布種苗の栽培と自家採種レポート
- 佐久間聡・中島悦子・斉藤 昭

- ・ B5判、120ページ モノクロ
- ・ 本体価格 1200円 + 送料・振込手数料

申込み 日有研ウェブサイト
<https://www.1971joaa.org>

OK シードプロジェクト・ショップ
 (他団体・関連書籍)
<https://okseed.jp>

野菜と暮らしていく 種採りのある未来をみつめる農場へ

長崎県佐賀市 種苗の自産自銷 本会幹事 岩崎政利

1 母本選抜からの出発
 作物の選抜を繰り返して、
 今の種を育てていく。
 今の種を育てていく。
 今の種を育てていく。
 今の種を育てていく。

2 自家採種をすすめよう
 誰にでもできる伝統野菜の種採り技術

33 えんどう豆
 クリソピー
 久野ひろ子

33 えんどう豆
 クリソピー
 久野ひろ子

自家採種を続け、即売以上にえんどう豆を育てたい。この記事を消費する方に届けて、そのことについて、いまも考えながら育てています。

■ えんどう豆は、採種を繰り返すことで、徐々に改良されていく。採種を繰り返すことで、徐々に改良されていく。採種を繰り返すことで、徐々に改良されていく。

■ えんどう豆は、採種を繰り返すことで、徐々に改良されていく。採種を繰り返すことで、徐々に改良されていく。採種を繰り返すことで、徐々に改良されていく。

■ えんどう豆は、採種を繰り返すことで、徐々に改良されていく。採種を繰り返すことで、徐々に改良されていく。採種を繰り返すことで、徐々に改良されていく。